

令和3年度 IBALAB@広場（茨木市市民会館跡地暫定広場）広場運営者募集公募型
プロポーザル 審査講評

令和3年3月19日に実施した令和3年度 IBALAB@広場（茨木市市民会館跡地暫定広場）（以下「広場」という。）広場運営者募集公募型プロポーザル選定会議の結果及び講評について、以下のとおり報告する。

I 選定スケジュール

(1)公募期間

令和3年2月5日（金）～3月12日（金）

(2)審査日

令和3年3月19日（金）

(3)審査結果通知

令和3年3月23日（火）

II 提案者数

2者

III 参加資格

2者とも、参加資格を満たしていた。

IV 候補者選定結果

提案者1 採用

提案者2 不採用

V 審査基準及び項目別講評

(1)審査基準

- ①事業のコンセプト・事業内容の提案（10点）
- ②市民が訪れたいくなる場とするための空間の提案（20点）
 - ・魅力的で開かれた店舗装飾等の工夫
 - ・使われやすい広場備品の配置等の工夫 など
- ③市民が訪れたいくなる場とするための運営の提案（30点）
 - ・魅力的な事業を行う仕組みの提案
 - ・収益性、公益性を両立しながら、自立した運営を行う仕組みの提案
 - ・コロナ禍において、感染者を発生させず事業を行う対策の提案 など
- ④IBALAB@広場プロジェクトの趣旨を広く伝え、サポーターを増やす仕組みの提案（20点）
 - ・広場を訪れる人がまた来たいと思え、交流が生まれる工夫
 - ・広場をつかう人同士がつながり、相乗効果を生む工夫 など
- ⑤これまで関わってきた企画実績等の評価（10点）
 - ※評価点は、委員による審査点の合計 630点（90点×7委員）

(2)個別講評

■提案者1（令和2年度広場運営者）

令和2年10月から運営されてきた提案者1は、約半年間の経験をもとに、出てきた課題を丁寧に検討し、蓄積されてきたことをさらに発展させるための工夫がみられると評価された。

来園者の興味を刺激し、参加を促し、繋がるきっかけを作る受け皿となる、その過程で場や人を育てるという具体的な提案がなされており、「サポーターを増やす仕組み作り」の視点をしっかり捉えていると評価された。

また、ホームページや広場を使いたい市民専用の問い合わせフォームを作成する予定であること、豊富なイベント経験から企画の質を向上させるような相談を受け付けること、それらの運営を行える人員配置を行うことなど、管理運営面にも力を入れて提案していることが窺えた。

「プレイヤーがカスタマーに、カスタマーがプレイヤーに」を合言葉に運営を行うなかで、着実に広場の認知度や関わる市民が増えていると思われるが、より多様な市民が関わりを持てる工夫・企画を期待する声もあった。

■提案者2

ターゲットを子育て世代に絞り、孤育てや若手ママの雇用問題など、社会課題にも触れながら、ママ達が澁刺と働く明るいイメージの企画内容であった。

具体的な飲食メニューや多彩な自主企画などが提案されており、運営に参加する人同士が繋がり、楽しみながら営業していく風景が想起されると期待する評価があった一方、広場のイベント企画者に対する受付や相談など、コーディネート機能を担う提案が欠けていると指摘された。また、「人と人、人と街を結び、社会と関わりをもてる広場を作る」という事業コンセプトは評価されたが、広場を利用する人、仕掛ける人等がつながり、心地よい空間を育んでいく当事業のキーコンセプト「育てる広場」に根差した具体的な提案を求める意見もあった。

これからのまちづくりには、ママ世代の活躍が不可欠であり、実際に広場には子育て世帯が数多く訪れていることを鑑みれば、非常に当を得た提案であると評価された。だからこそ、飲食店舗としての営業面だけではなく、「広場を運営する」といった公益の視点からの提案が求められた。

VI 総評

まず、気候や天候の影響が大きく、また市民イベントなどあらゆる要素に左右される広場の社会実験事業にもかかわらず、2者の市民及び市内事業者から応募いただき、そのチャレンジに大変感謝している。熱意のある2者の提案に敬意を表し、審査員一同、真摯に審査を実施した。

審査については、安定した飲食事業等の運営はもちろん、自主企画の実施内容、多様な市民の興味を促し巻き込んでいく企画など、公益性の高い取組みが今後広場でどのように発展していくか、また、どれだけ「育てる広場」としてのコンセプトに沿った提案になっているか、といった視点で審査されていた。また、公益性を高めると当然収益性のバランスは悪くなるが、持続的に経営していける収支計画となっているか、実現性はどうかといった視点でもみられた。

それらの視点で見ると、提案者2の提案は、冒頭の事業コンセプトにおいて「人と人、人と街を結び、社会と関わりをもてる広場を作る」「広場に関わる全ての人々が、イキイキと！楽しい人生を送る」というわかりやすい目標を立て、ママたちの力を結集するという魅力的な提案であったものの、管理運営の具体的な手段や、提案にあたりどのような準備を行っていただいたかの記載が乏しく、イメージし辛いものとなってしまった。また、収支計画においても、積算根拠を問う意見もあった。

提案者1の提案は、取組みを継続しつつ、課題として感じた現場対応、イベントへの対応等を専門に行うグループを飲食事業等と切り分けて設けることで補うなど、積極的な提案がみられた。収支計画においては、売上想定を抑えた設定とし、収益性が乏しいとみる意見もあったほか、持続的な運営に向けて、事業者側のみではなく、行政含めた双方の創意工夫が必要であるという意見もあった。

以上のことから、最も高い得点を得た提案者1を事業実施予定者に、提案者2を次点者として選定するものであるが、前述のように、ママたちの力を結集した取組みも非常に魅力的な提案であり、惜しくも今回は次点としたが、今後の活動に期待したい。

また、運営者として選定された提案者1においても、新たな市民や取組みが参画できる運営に努めていただき、オール茨木としての魅力を凝縮した場に育てていただきたい。

これからも、社会実験期間中は日々試行錯誤が続くことが予想されるが、引き続き「育てる広場」を体現する場所としてチャレンジを継続していただくことで、これまでにない茨木の風景が醸成されていくことを期待している。

令和3年3月23日

令和3年度 IBALAB@広場（茨木市市民会館跡地暫定広場）

広場運営者募集 プロポーザル選定会議